

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月12日

【四半期会計期間】 第59期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 東京鋼鐵株式会社

【英訳名】 TOKYO KOHTETSU CO.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 栗原 英夫

【本店の所在の場所】 東京都千代田区内神田一丁目17番9号
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は最寄りの連絡場所で行っております。)

【電話番号】 03-5217-1611

【事務連絡者氏名】 取締役鉄構開発部長兼経理部長 小口 芳一

【最寄りの連絡場所】 栃木県小山市城北四丁目38番地1

【電話番号】 0285-21-0513

【事務連絡者氏名】 取締役鉄構開発部長兼経理部長 小口 芳一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第2四半期累計期間	第59期 第2四半期累計期間	第58期
会計期間	自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日	自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日	自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日
売上高 (千円)	8,542,814	6,718,428	16,908,829
経常利益 (千円)	717,548	844,791	1,639,436
四半期(当期)純利益 (千円)	460,302	565,697	1,058,596
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	2,453,000	2,453,000	2,453,000
発行済株式総数 (株)	17,446,000	17,446,000	17,446,000
純資産額 (千円)	15,258,944	16,338,038	15,894,232
総資産額 (千円)	19,455,986	20,176,690	20,345,875
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	26.43	32.49	60.79
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	5	5	12
自己資本比率 (%)	78.4	81.0	78.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,358,003	97,354	3,027,287
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	218,898	224,070	5,252,391
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	147,151	211,644	3,963
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	4,295,874	1,183,825	1,074,854

回次	第58期 第2四半期 会計期間	第59期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成26年 7月 1日 至 平成26年 9月30日	自 平成27年 7月 1日 至 平成27年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	11.91	14.64

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、設備投資が緩やかな増加基調にあり、個人消費も雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅く推移しているものの、中国をはじめとする新興国の急激な景気減速により、国内の生産・販売活動は停滞いたしました。

当社の属する普通鋼電炉業界におきましては、中国の景気が減速するなか、中国鉄鋼業各社が高水準の生産を継続し、周辺アジア諸国への輸出を増大させたことから、アジア諸国での製品・原料市況が大幅に下落し、我が国鉄鋼業にも大きく影響致しました。電炉鋼の原料である鉄スクラップの価格の下落と、製品需要の低迷により、国内流通各社は慎重な在庫対策を採っていることから、販売量の低迷と、原料である鉄スクラップ価格の下落に呼応した製品価格の下落という厳しい経営環境が継続しております。

こうした状況のもと当社では、最適な生産に努めると同時にコスト削減に注力し、顧客重視のきめ細かな配送の実施をまいりました。

当第2四半期の業績は以下の通りです。

売上高

国内の鋼材市況は盛り上がりを欠いたことから販売数量が減少し、さらに鋼材販売価格も低位で推移したことから、売上高は前年同期間比1,824百万円減少（21.4%）し6,718百万円となりました。

営業利益

鉄スクラップ価格が下落したことにより、販売価格と原材料仕入価格の値差が改善し、営業利益は前年同期間比128百万円増加（18.6%）し820百万円となりました。

経常利益

上記営業利益の増加により、前年同期間比127百万円増加（17.7%）し844百万円となりました。

四半期純利益

法人税等を差し引いた結果、前年同期間比105百万円増加（22.9%）し565百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べ479百万円減少（4.7%）し9,733百万円となりました。これは、鋼材出荷数量が低迷したことにより棚卸資産が増加したものの、売掛金の減少と、法人税等の納税により預け金が減少したことによるものであります。

固定資産は、圧延の段積装置更新の完工により、前事業年度末に比べ310百万円増加（3.1%）し10,443百万円となりました。

これにより、総資産は前事業年度末に比べ169百万円減少（0.8%）し20,176百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べ549百万円減少（20.2%）し2,172百万円となりました。これは、鉄スクラップ価格の下落による仕入債務の減少と、法人税等の納税によるものです。

固定負債は、借入金返済により長期借入金が減少し、前事業年度末に比べ63百万円減少（3.7%）し1,665百万円となりました。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べ612百万円減少（13.8%）し3,838百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べ443百万円増加（2.8%）し16,338百万円となりました。これは、純利益計上により利益剰余金が443百万円増加したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前事業年度末に比べて108百万円の増加となり、1,183百万円となりました。なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は97百万円（前年同四半期は1,358百万円の収入）となりました。収入の主な内訳は、税引前四半期純利益847百万円、減価償却費338百万円と、売上債権の減少229百万円であります。支出の主な内訳は、仕入債務の減少515百万円と、法人税等の支払額415百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は224百万円（前年同四半期は218百万円の支出）となりました。支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出1,200百万円と、有形固定資産の取得による支出223百万円であります。収入は主に預け金の減少1,630百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は211百万円（前年同四半期は147百万円の支出）となりました。これは、借入金返済により有利子負債が89百万円減少したことと、剰余金の配当による支出122百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間では、研究開発活動を行っておりますが、少額であり特に記載すべき事項はありません。なお、当第2四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	55,400,000
計	55,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,446,000	同左	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	17,446,000	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年 7月 1日 ~ 平成27年 9月30日		17,446,000		2,453,000		981,690

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三井物産株式会社 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目1番3号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	5,092	29.19
阪和興業株式会社	東京都中央区築地一丁目13番1号	4,611	26.43
ビービーエイチ フォー フィ デリティ ロー プライズド ストック ファンド(プリンシ パル オール セクター サブ ポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東 京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,318	7.56
朝日工業株式会社	埼玉県児玉郡神川町大字渡瀬222	870	4.99
モルガン・スタンレーMUF G 証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目9番7号	631	3.62
日鉄住金物産株式会社	東京都港区赤坂八丁目5番27号	550	3.15
清水真一郎	東京都世田谷区	500	2.87
清水正紀	東京都杉並区	500	2.87
ビービーエイチ フィデリ ティ ビューリタン フィデリ ティ シリーズ イントリン シック オポチュニテイズ ファンド (常任代理人 株式会社三菱東 京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	307	1.76
小林達生	東京都世田谷区	231	1.32
小林幹生	神奈川県横浜市青葉区	231	1.32
計	-	14,842	85.08

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 32,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,412,300	174,123	
単元未満株式	普通株式 800		1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	17,446,000		
総株主の議決権		174,123	

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京鋼鐵株式会社	東京都千代田区内神田一 丁目17番9号	32,900		32,900	0.19
計		32,900		32,900	0.19

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.84%
売上高基準	0.02%
利益基準	1.11%
利益剰余金基準	0.84%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1 【四半期財務諸表】
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	88,854	2,383,825
受取手形及び売掛金	3,208,369	2,978,520
商品及び製品	1,112,920	1,263,101
原材料及び貯蔵品	498,478	395,523
預け金	5,206,000	2,590,000
その他	98,010	122,228
流動資産合計	10,212,633	9,733,199
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,326,122	1,325,916
機械装置及び運搬具(純額)	3,113,863	3,525,634
土地	4,531,400	4,531,400
その他(純額)	408,081	317,278
有形固定資産合計	9,379,467	9,700,228
無形固定資産	40,568	40,433
投資その他の資産	713,205	702,829
固定資産合計	10,133,241	10,443,491
資産合計	20,345,875	20,176,690
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	851,739	499,472
短期借入金	159,248	129,248
未払法人税等	414,768	283,340
賞与引当金	119,769	104,767
引当金	33,450	33,450
その他	1,143,291	1,122,562
流動負債合計	2,722,267	2,172,840
固定負債		
長期借入金	372,738	313,114
引当金	107,603	107,603
その他	1,249,034	1,245,094
固定負債合計	1,729,375	1,665,811
負債合計	4,451,642	3,838,652
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,453,000	2,453,000
資本剰余金	981,690	981,690
利益剰余金	9,944,065	10,387,871
自己株式	13,241	13,241
株主資本合計	13,365,514	13,809,320
評価・換算差額等		
土地再評価差額金	2,528,718	2,528,718
評価・換算差額等合計	2,528,718	2,528,718
純資産合計	15,894,232	16,338,038
負債純資産合計	20,345,875	20,176,690

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	8,542,814	6,718,428
売上原価	7,252,074	5,310,661
売上総利益	1,290,739	1,407,767
販売費及び一般管理費	598,989	587,292
営業利益	691,750	820,475
営業外収益		
受取利息	1,355	3,138
仕入割引	17,095	13,115
作業くず売却益	7,349	7,349
その他	1,797	3,103
営業外収益合計	27,598	26,706
営業外費用		
支払利息	1,221	1,286
売上割引	346	293
為替差損	-	810
その他	231	-
営業外費用合計	1,799	2,390
経常利益	717,548	844,791
特別利益		
固定資産売却益	6,292	11,760
特別利益合計	6,292	11,760
特別損失		
固定資産除却損	4,518	8,614
特別損失合計	4,518	8,614
税引前四半期純利益	719,323	847,938
法人税等	259,021	282,241
四半期純利益	460,302	565,697

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	719,323	847,938
減価償却費	340,770	338,538
賞与引当金の増減額(は減少)	3,498	15,001
前払年金費用の増減額(は増加)	14,100	-
受取利息及び受取配当金	1,355	3,138
支払利息	1,221	1,286
為替差損益(は益)	-	810
固定資産売却損益(は益)	6,292	11,760
固定資産除却損	4,518	8,614
売上債権の増減額(は増加)	191,696	229,849
たな卸資産の増減額(は増加)	120,950	47,225
その他の資産の増減額(は増加)	1,555	16,239
仕入債務の増減額(は減少)	365,632	515,787
未払消費税等の増減額(は減少)	104,901	168,699
その他の負債の増減額(は減少)	6,865	132,518
その他	1,405	6,000
小計	1,475,289	510,666
利息及び配当金の受取額	1,355	3,138
利息の支払額	1,221	1,286
法人税等の支払額	117,420	415,163
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,358,003	97,354
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	1,200,000
有形固定資産の取得による支出	216,637	223,478
有形固定資産の売却による収入	387	19,551
無形固定資産の取得による支出	2,184	7,452
預け金の増減額(は増加)	-	1,630,000
その他の支出	465	400
その他の収入	-	5,850
投資活動によるキャッシュ・フロー	218,898	224,070
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	400,000	150,000
短期借入金の返済による支出	400,000	150,000
長期借入金の返済による支出	60,002	89,624
自己株式の取得による支出	24	-
配当金の支払額	87,125	122,020
財務活動によるキャッシュ・フロー	147,151	211,644
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	810
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	991,952	108,970
現金及び現金同等物の期首残高	3,303,922	1,074,854
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,295,874	1,183,825

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)
運送費	316,400千円	270,562千円
賞与引当金繰入額	13,679千円	14,293千円
退職給付費用	5,610千円	2,143千円
役員賞与	9,660千円	13,040千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)
現金及び預金	339,874千円	2,383,825千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	- 千円	1,200,000千円
預入期間が3ヶ月以内の預け金	3,956,000千円	- 千円
現金及び現金同等物	4,295,874千円	1,183,825千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	87,065	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	87,065	5.00	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	121,891	7.00	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	87,065	5.00	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

当社は、鉄鋼事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当社は、鉄鋼事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	26円43銭	32円49銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	460,302	565,697
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	460,302	565,697
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,413	17,413

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第59期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当について、平成27年11月5日開催の取締役会において、平成27年9月30日の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 87,065千円
1株当たりの金額 5円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成27年12月4日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月11日

東京鋼鐵株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉澤 祥次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千足 幸男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京鋼鐵株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第59期事業年度の第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東京鋼鐵株式会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。